

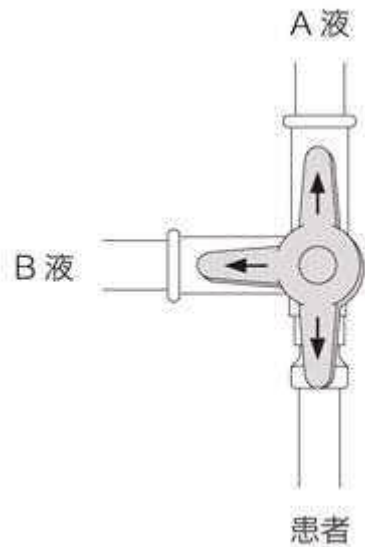
問題詳細

問題26	<p>鎖骨下静脈へ中心静脈カテーテルを挿入する際に起こりやすい合併症はどれか。</p> <ul style="list-style-type: none">1. 肺炎<input checked="" type="radio"/> 2. 気胸3. 嘔吐4. 無気肺
解説	<p>[1] × [2] ○ [3] × [4] ×</p> <p>中心静脈カテーテルの挿入部位として、鎖骨下静脈からのアプローチは最も一般的である。右心房に向けてカテーテルを挿入するが、誤穿刺によってカテーテルの先が胸腔内に到達してしまうと、気胸が生じる危険がある。また、動脈を誤穿刺した場合には、出血して胸腔内に貯留する血胸が生じる危険もある。</p>

問題詳細

問題27

下図の三方活栓で、薬液の流れはどれか。



1. A液のみ注入
2. B液のみ注入
3. A液, B液ともに注入
4. A液, B液ともに中断

解説

[1] × [2] × [3] ○ [4] ×

活栓に記してある矢印は、開通していることを示すものである。よってA液もB液も患者側に通じているため、両方とも注入できる。図は、ピギーバッグ法とよばれる静脈注射法の1つで、側注管から別の輸液セットを用いて薬剤を注入する方法であると考えられる。この方法は、抗生物質の注入などにおいてよく用いられる。

また、三方活栓の種類にはR型とL型があり、R型は360°回転できるが、L型は180°の回転のみである(図からはどちらか判断できない)。

問題詳細

問題28	<p>酸素ボンベ内の残量を確認する方法はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. バルブを開けた時の噴出音<input checked="" type="radio"/> 2. 圧力計の示す値3. 加湿ビン内の気泡の量4. 酸素流量計の目盛
解説	<p>[1] × [2] ○ [3] × [4] ×</p> <p>ボンベ内の気体の残量は、圧力計から求められる。ボンベには、容積、充填時圧力、耐圧試験圧力などが刻印されているが、このうちボンベの容積(l)が重要である。圧力計で確認したその時点でのボンベ内圧とボンベ容積をかけることで、ボンベ内の酸素の残量(l)を求めることができる。</p> <p>圧力がMPa表示の場合の計算式は、ボンベ内の酸素の量(l)=ボンベ容量(l)×残気圧(MPa)×10.197となり、圧力表示がkg/cm²の場合の計算式は、ボンベ内の酸素の量(l)=ボンベ容量(l)×残気圧(kg/cm²)となる。現在は、圧力の単位表示がMPaに統一されているが、医療現場には両方が混在しているので誤りがないように注意する。</p>

問題詳細

問題29	<p>前腕の動脈性外出血の止血で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 出血部より末梢側を圧迫する。○ 2. 圧迫部位を心臓より高く保つ。3. 直接圧迫は2～3分行う。4. 止血帯は90分以上連続して使用する。
解説	<p>[1] × 出血部位より末梢側の血流を遮断してしまうことにより、出血部位から血液が流れ出るのを助長してしまう。</p> <p>[2] ○ 圧迫(出血)部位を心臓より高い位置に保つことで、心臓より低い位置にあるときよりもその部位の血圧(動脈壁に加わる圧力)を低くすることができ、止血しやすくなる。</p> <p>[3] × 動脈性の出血の場合、静脈よりも血圧が高いことから、止血により多くの時間を要し、5分以上の圧迫が必要である。</p> <p>[4] × 止血帯を用いる場合、30分に1回止血帯をゆるめて血流の再開をはかるのが原則である。手や足からの出血で、直接圧迫では止血できないような大量の動脈性出血の場合のみ、止血帯を用いる。なるべく幅の広い止血帯(3cm以上)を用い、出血部位よりも中枢側に巻いて駆血を行う。</p>